

1 単元 ヒマワリを育てよう

2 教科の目標

背丈や葉の数の変化を観察することを通して、植物の成長を実感することができる。

3 活用した ICT

デジタルカメラ、プレゼンテーションソフト

4 活用した ICT の特性

- ・ 見たものを手軽で正確に記録できることで、意欲を持続しながら、継続的に観察することができる。(デジタルカメラ)
- ・ 画像やイラストを順番に提示することで、時系列に整理でき、植物の成長を視覚的にとらえることができる。(プレゼンテーションソフト)

5 実践の様子

記録方法の工夫

ヒマワリの栽培を行った。子どもがヒマワリの成長に気付くことができるようにするために、デジタルカメラでその成長の様子を記録させた。デジタルカメラは背丈や葉の数を短時間に正確に記録することができると考えたからである。毎日デジタルカメラでヒマワリを記録した。記録した画像を並べたり順に見せたりした。

また、気付いたことを「観察メモ」に記録した。(資料①)「観察メモ」には、葉の数と背丈を記録した。背丈については、「〇〇cm」と記録することは難しかったため、「〇〇と同じ大きさ」と記述させた。子どもたちは、サイコロやチョーク、ペンなどの身近なものの名前を記入していた。

このように記録方法を工夫することによって、子どもたちは「ヒマワリがだんだん大きくなった」とヒマワリの成長を感じることができた。

表現方法の工夫

統合ソフトを活用して、ヒマワリを栽培したことをスライドで表現させた。「観察メモ」を参考にしながら、教師が作成したひな形に葉の数と背丈を入力した。(資料②) 入力する部分が子どもたちにとって分かりやすいように、背景色を葉の数は黄色、背丈は青色として、観察メモと紙芝居を対応させた。

完成した紙芝居を子どもたち同士で1日目から順に見せ合った。すると、ヒマワリがだんだん大きくなる様子が分かった。比較する具体物が徐々に大きくなるのでそのことから成長する様子が分かった。

作成した紙芝居を教室に掲示した。時間の流れがより分かりやすくなるように、横一列に掲示した。

ヒマワリの 観察記録				／(月)～／(金)	記録
日	月	日	葉のかず	せたけ	気づいたこと
日	月	日	まい	
日	月	日	まい	
日	月	日	まい	
日	月	日	まい	
日	月	日	まい	

資料① 観察メモ



資料② 子どもが作成した紙芝居の一部分

6 成果と課題

- 子どもたちにとって困難なスケッチするというのをデジタルカメラで補うことができた。
- 葉の数、背丈という視点を与えたため、今まで植物の観察をしたことがない子どもたちでも観察することができた。
- 視点が二つだけだったので、葉の数と背丈以外の部分に着目することができなかった。葉の色や手ざわりなど、視点をもっと増やしても良かった。